

チャトゲコナジラミ

1 形態と生態

- (1)成虫の体長は0.9～1.3 mmです。体色は橙黄色ですが、前翅は紫褐色(肉眼では灰色に見えます)で不整形の白紋があります。
- (2)ふ化した幼虫は葉裏に定着し、定着すると光沢のある黒色の小判状となります。周囲に白色のロウ物質をもち、多数の刺毛があります。
- (3)成虫以外の発育態で越冬し、年に4回発生します。
- (4)ミカントゲコナジラミ(チャ系統)は、新種チャトゲコナジラミであることがわかりました。



写真1 成虫(液浸標本)



写真2 卵(黄色)と幼虫(黒色に白ふち)

2 被害の様子

- (1)成虫は新芽に群生し、幼虫は葉裏に生息してそれぞれ吸汁加害します。
- (2)幼虫の吸汁により大量に分泌される甘露が下に落ち、下位葉の葉表にすす病を誘発します。
- (3)一番茶摘採期と成虫の発生時期が重なると、新芽に多数の成虫が付着し、茶摘み作業時に不快となります。



写真3 新芽に群がる成虫



写真4 葉裏に多発した幼虫(上)とすす病(下)

3 発生について

- (1)成虫は年4回発生し、成虫の終息時期(若齢幼虫発生時期)は5月下旬、7月下旬、9月下旬、12月中旬と考えられます。
- (2)成虫は、4回目の発生の後、気温の低下に伴い終息します。
- (3)卵および幼虫の多くは、冬の寒さで死亡しますが、越冬した個体が翌春に成虫になります。

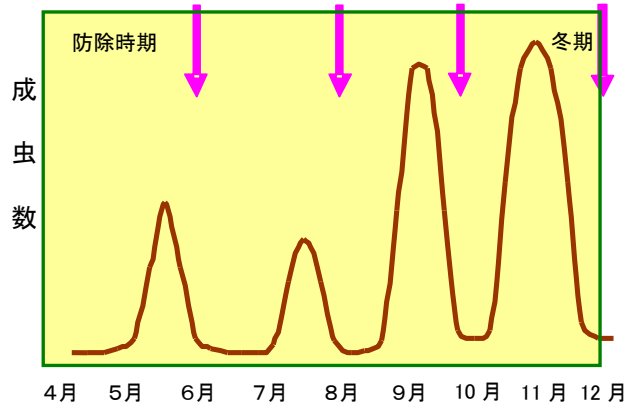


図1 埼玉県における成虫発生消長(模式図)と防除時期との関係

4 防除時期と防除方法

- (1)幼虫は下位葉の葉裏、すそ部に多く生息するので、見過ごさぬよう早期発見に努めます。
- (2)一番茶の摘採後等に深刈りを行い寄生葉を物理的に除去します。なお、クワシロカイガラムシ発生茶園では、ふ化幼虫が分散しないように深刈りは6月上中旬くらいに実施します。
- (3)防除時期は、成虫の終息時期が目安となります。若齢幼虫発生時期にあたる5月下旬、7月下旬、9月下旬で、5,7月の防除はクワシロカイガラムシの防除時期と重なり、両種に登録のある薬剤の使用が効果的です。
- (4)越冬防除は2~3月頃に実施します。マシン油剤を2回以上散布すると効果が高く、一番茶生育期の成虫の発生を抑制できます。防除は、地域における一斉防除が効果的です。
- (5)登録薬剤を、主な寄生部位である「すそ部」を中心に、葉裏までしっかりかかるように散布します(散布量400L/10a)。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

■ 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会

■ 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県茶業研究所栽培担当 TEL04-2936-1351、埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県